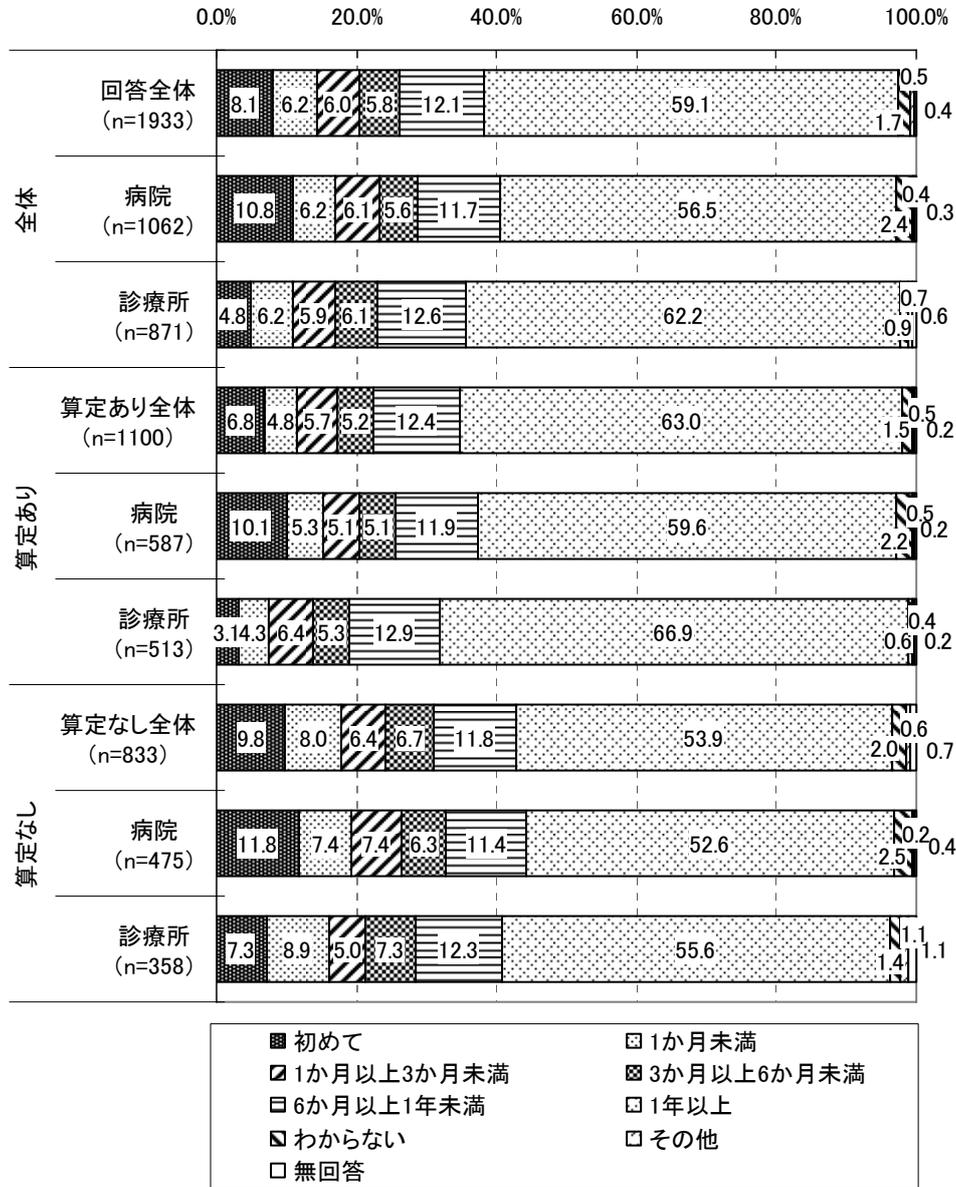


図表 65 通院期間（病院・診療所別）

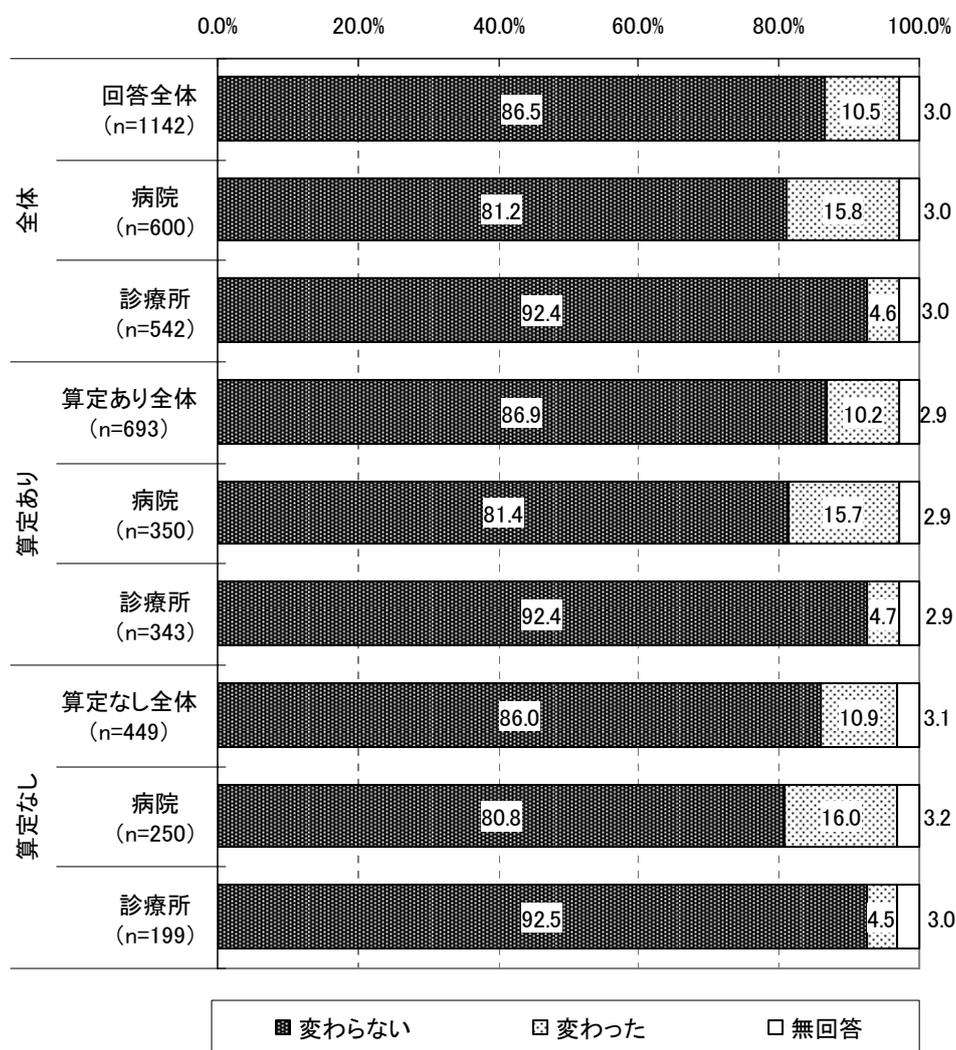


③診察内容等の変化（同じ医療機関に1年以上通院している患者）

同じ医療機関に1年以上通院している患者のうち、担当医師が1年前と変わったかどうかについてみると、全体では、担当医師は「変わらない」（86.5%）が大多数を占め、担当医師は「変わった」は10.5%であった。「算定あり」の患者、「算定なし」の患者ともに同様の傾向がみられた。

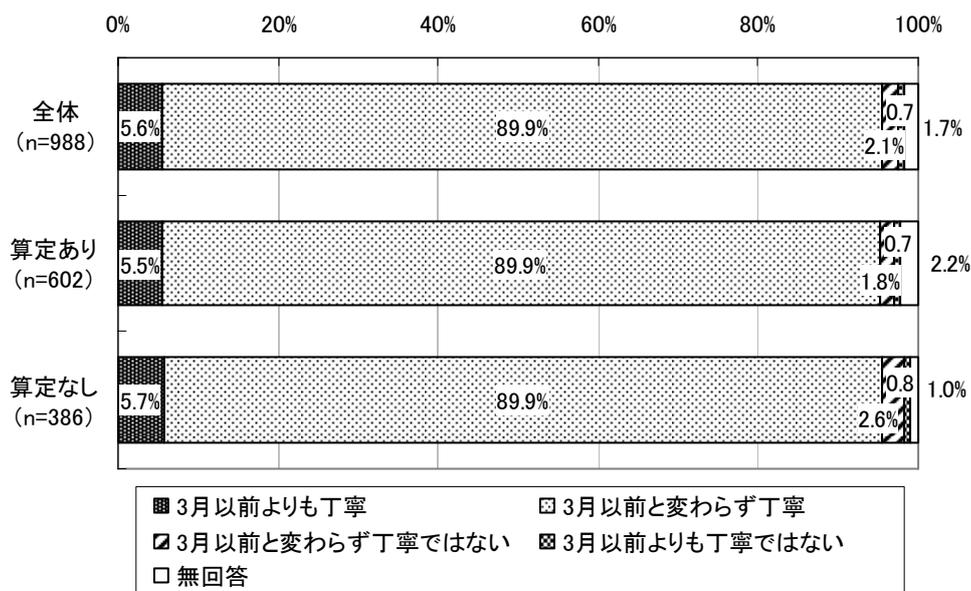
病院・診療所別に担当医師の変更をみると、病院では担当医師が「変わらない」という患者が81.2%、診療所では92.4%となり、診療所の方が高い結果となった。

図表 66 担当医師の変更（同じ医療機関に1年以上通院している患者）



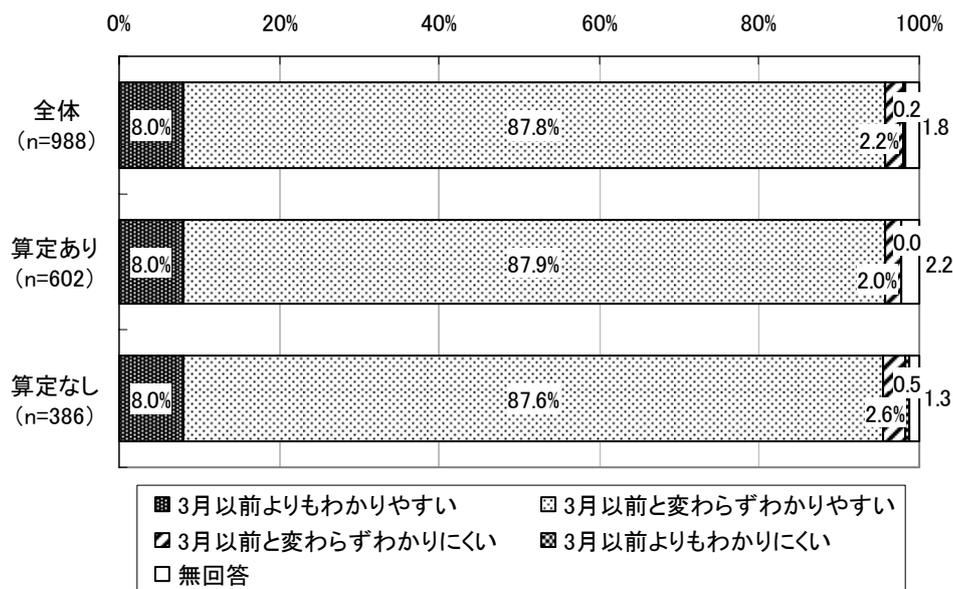
平成20年4月以降の「問診・身体診察」の状況についてみると、全体では、「3月以前と変わらず丁寧」(89.9%)が最も多かった。「3月以前よりも丁寧」は5.6%であった。この傾向は、「算定あり」の患者、「算定なし」の患者においても同様であった。

図表 67 平成20年4月以降の診察内容の変化（問診・身体診察）



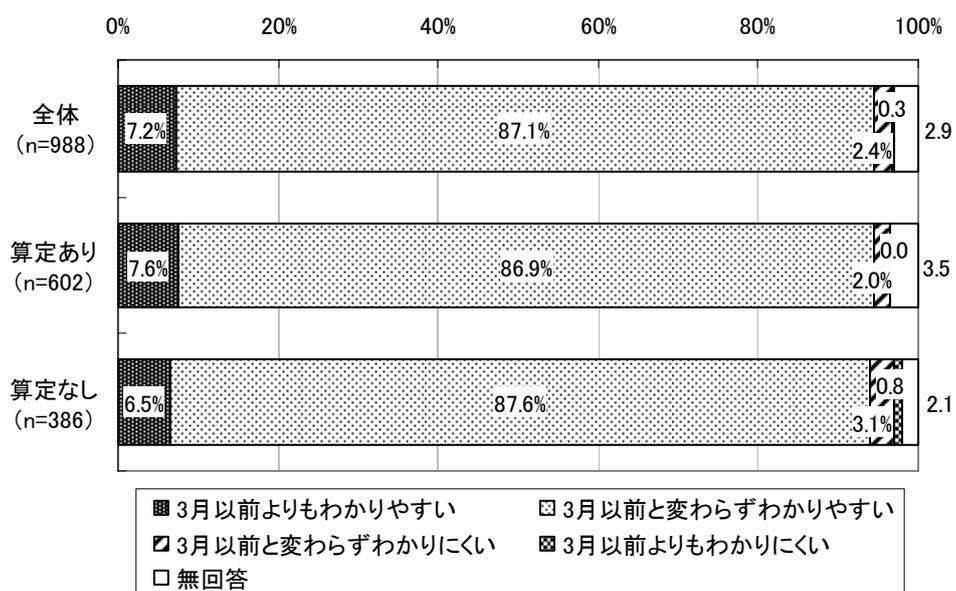
平成 20 年 4 月以降の「症状・状態についての医師からの説明」の状況についてみると、全体では、「3 月以前と変わらずわかりやすい」(87.8%) が最も多く、「3 月以前よりもわかりやすい」は 8.0%であった。この傾向は、「算定あり」の患者、「算定なし」の患者においても同様であった。

図表 68 平成 20 年 4 月以降の診察内容の変化 (症状・状態についての医師からの説明)



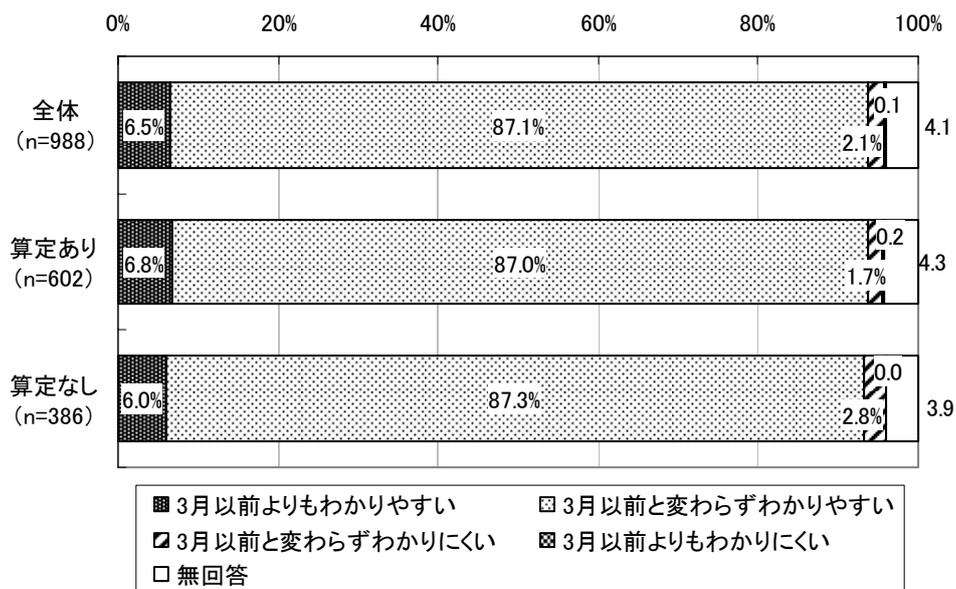
平成20年4月以降の「今後の治療方針・生活上の注意や指導についての医師からの説明」の状況についてみると、全体では、「3月以前と変わらずわかりやすい」(87.1%)が最も多く、「3月以前よりもわかりやすい」は7.2%であった。「算定あり」の患者では「3月以前よりもわかりやすい」の割合が、「算定なし」の患者よりも1.1ポイント高くなった。

図表 69 平成20年4月以降の診察内容の変化
(今後の治療方針・生活上の注意や指導についての医師からの説明)



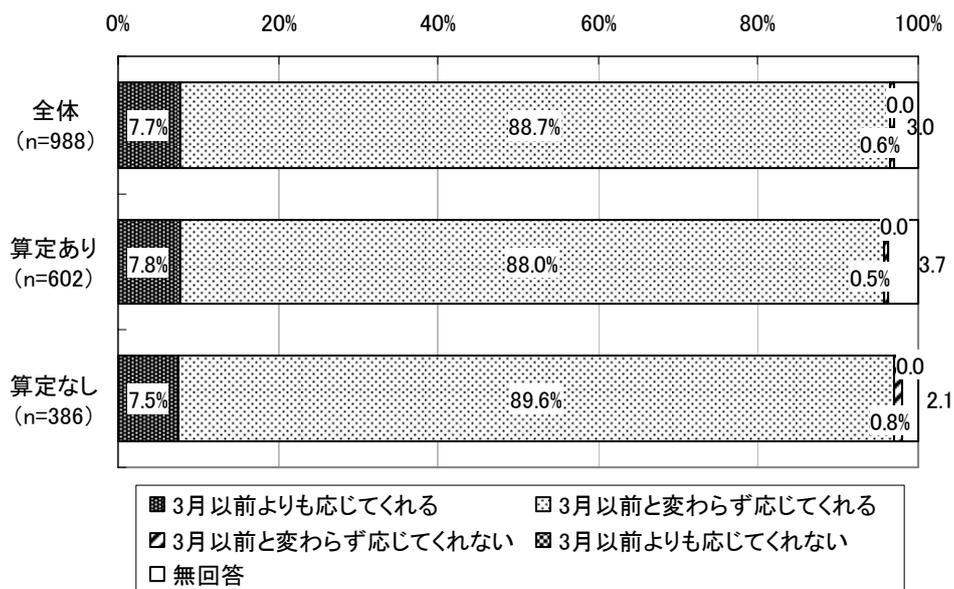
平成 20 年 4 月以降の「処方された薬についての説明」の状況についてみると、全体では、「3 月以前と変わらずわかりやすい」(87.1%) が最も多く、「3 月以前よりもわかりやすい」は 6.5%であった。この傾向は、「算定あり」の患者、「算定なし」の患者においても同様であった。

図表 70 平成 20 年 4 月以降の診察内容の変化（処方された薬についての説明）



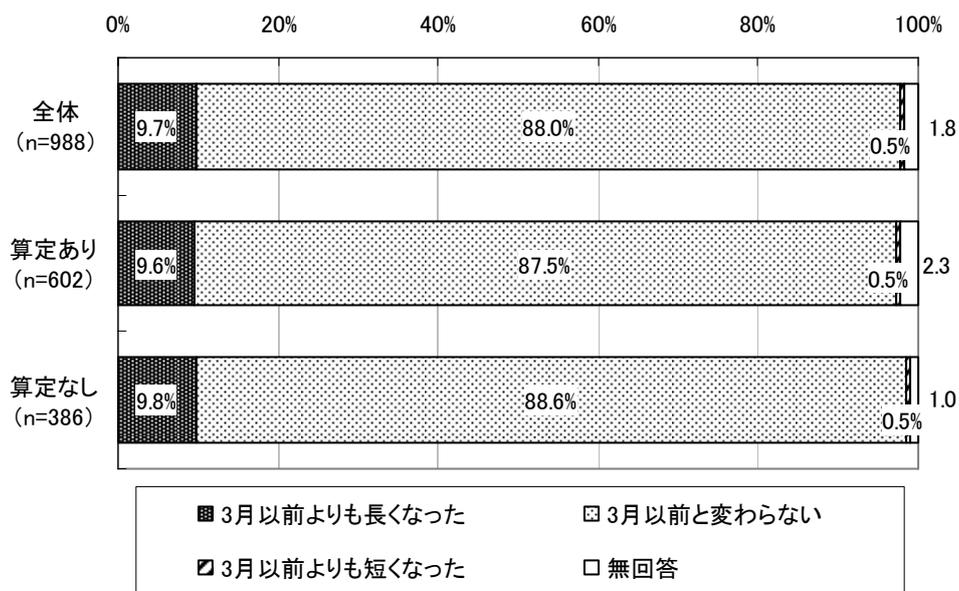
平成 20 年 4 月以降の「悩みや不安についての相談」の状況についてみると、全体では、「3 月以前と変わらずわかりやすい」(88.7%) が最も多く、「3 月以前よりもわかりやすい」は 7.7% であった。この傾向は、「算定あり」の患者、「算定なし」の患者においても同様であった。

図表 71 平成 20 年 4 月以降の診察内容の変化（悩みや不安についての相談）



平成20年4月以降の「医師が直接診察してくれる時間」の状況についてみると、全体では、「3月以前と変わらない」（88.0%）が最も多く、「3月以前よりも長くなった」は9.7%であった。この傾向は、「算定あり」の患者、「算定なし」の患者においても同様であった。

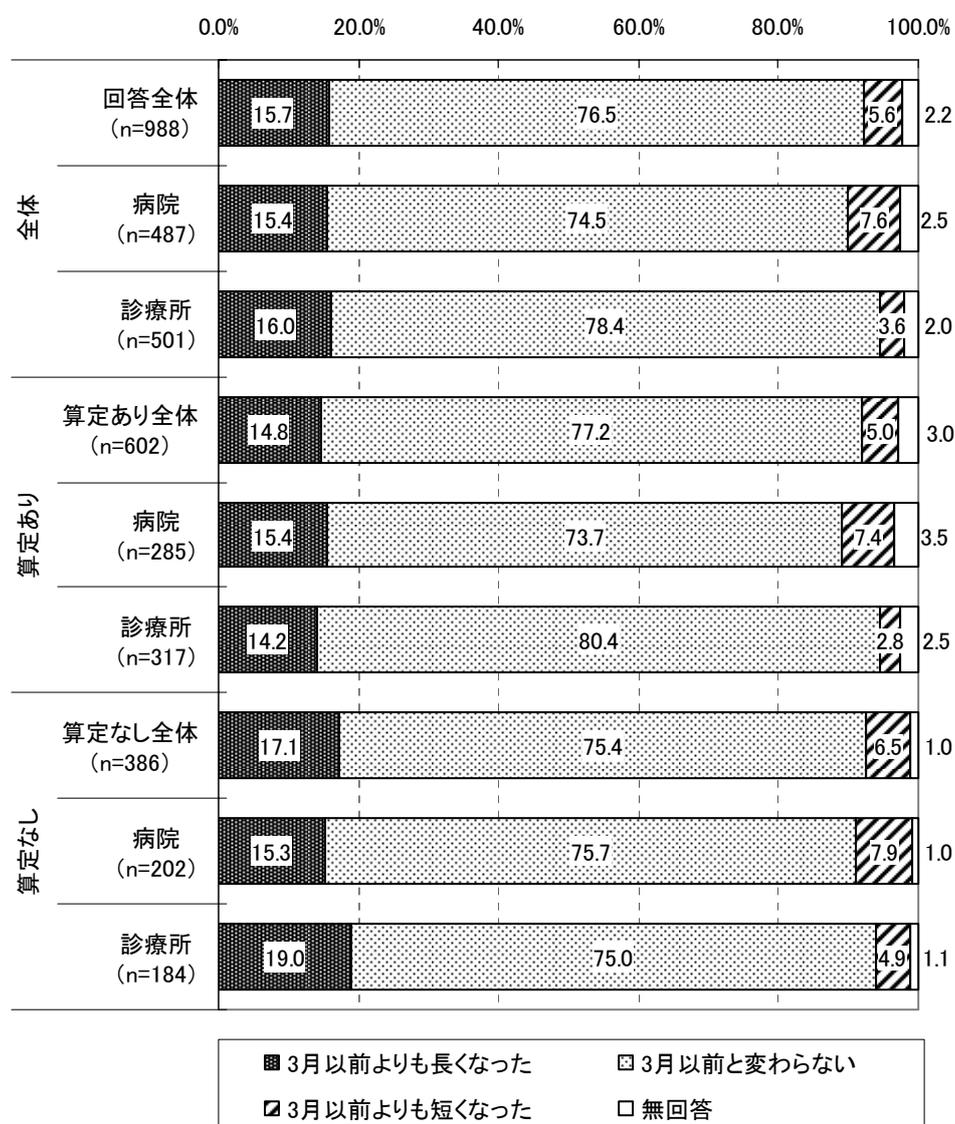
図表 72 平成20年4月以降の診察時間（医師が直接診察してくれる時間）の変化



平成 20 年 4 月以降の「診察までの待ち時間」の状況についてみると、全体では、「3 月以前と変わらない」(76.5%) が最も多く、「3 月以前よりも長くなった」は 15.7%、「3 月以前よりも短くなった」は 5.6%であった。

「算定あり」の患者と「算定なし」の患者とを比較すると、「算定なし」の患者では、「3 月以前よりも長くなった」と「3 月以前よりも短くなった」割合が「算定あり」の患者よりも高い結果となった。

図表 73 診察までの待ち時間の変化



④診察を受けた時の状況

診察を受けた時間についてみると、全体では平均 9.9 分（標準偏差 8.6、中央値 10.0）であった。外来管理加算の算定の有無別にみると、「算定あり」の患者では、平均 10.5 分（標準偏差 9.5、中央値 10.0）、「算定なし」では、平均 8.8 分（標準偏差 6.9、中央値 6.0）であった。

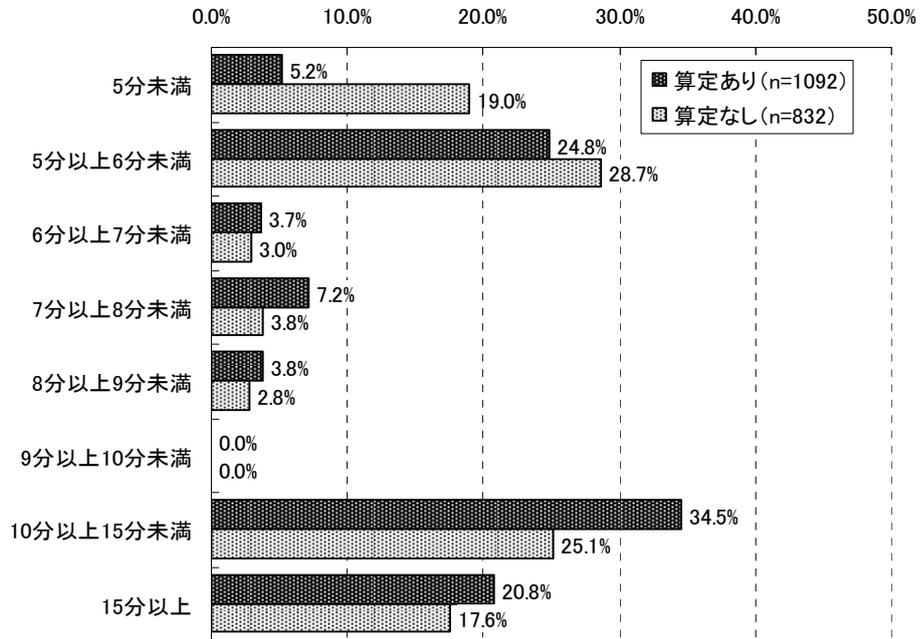
診察を受けた時間の分布を外来管理加算算定の有無別にみると、「算定あり」の患者では、「10 分以上 15 分未満」（34.5%）が最も多く、次いで「5 分以上 6 分未満」（24.8%）、「15 分以上」（20.8%）であった。一方、「算定なし」の患者では、「5 分以上 6 分未満」（28.7%）が最も多く、次いで「10 分以上 15 分未満」（25.1%）、「5 分未満」（19.0%）、「15 分以上」（17.6%）であり、「算定あり」の患者に比べて時間が短い。

図表 74 診察を受けた時間（分）

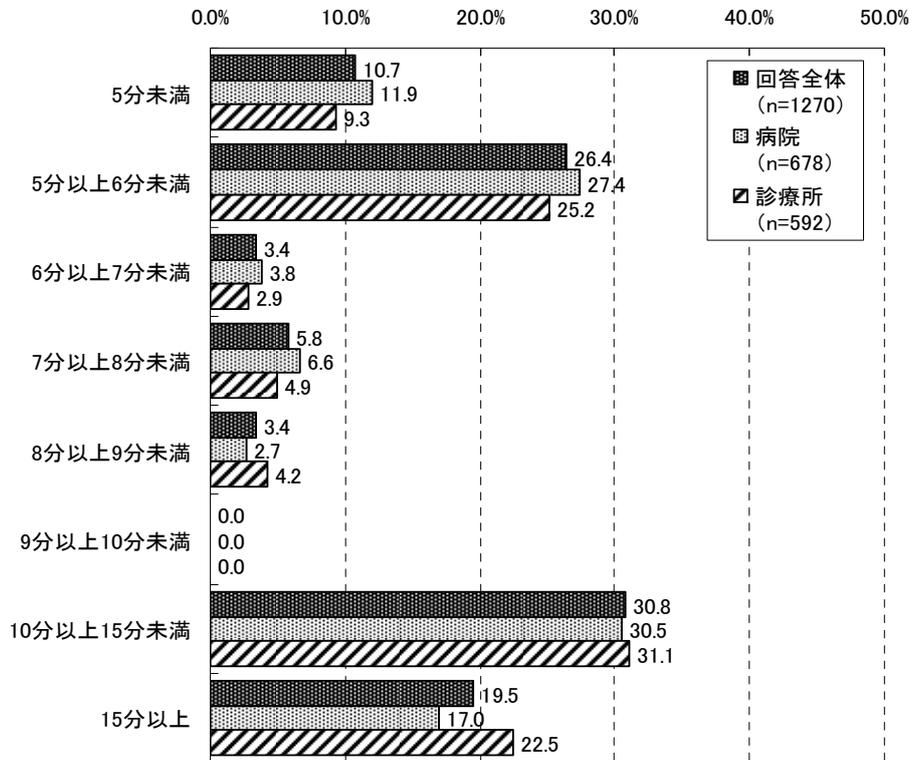
	平均値	標準偏差	最大値	最小値	中央値
全体 (n=1,270)	9.9	8.6	120.0	1.0	10.0
病院	9.7	9.7	120.0	2.0	8.0
診療所	10.1	7.2	60.0	1.0	10.0
算定あり (n=765)	10.5	9.5	120.0	2.0	10.0
病院	10.6	11.3	120.0	2.0	10.0
診療所	10.4	7.0	60.0	2.0	10.0
算定なし (n=505)	8.8	6.9	60.0	1.0	6.0
病院	8.2	6.5	60.0	2.0	6.0
診療所	9.5	7.4	40.0	1.0	8.0

(注)・「診察時間」とは、診察室に入り、医師から直接、問診や身体診察を受けたり、医師へ質問したり、医師から説明を聞いたりした後、診察室を出るまでの時間を指す。
 ・「わからない」という回答、無回答を除き、集計した。

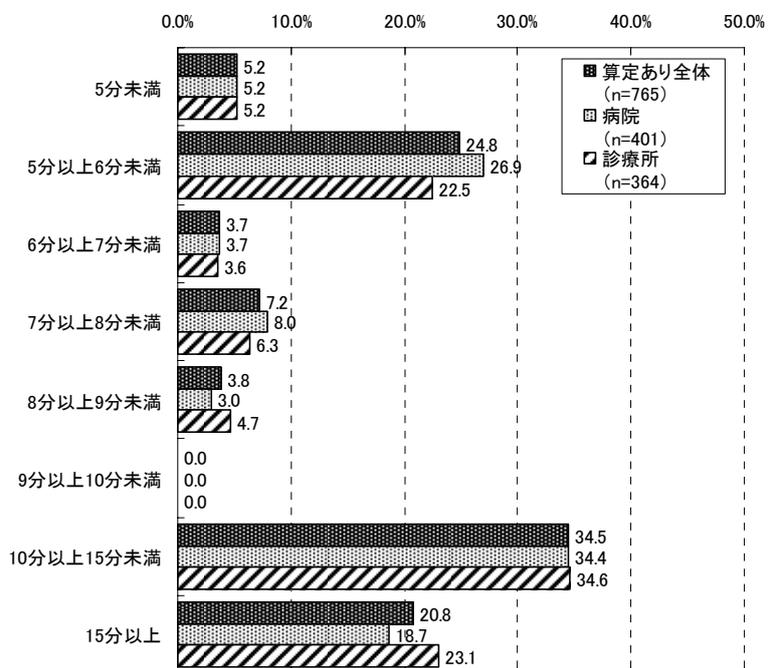
図表 75 診察を受けた時間の分布



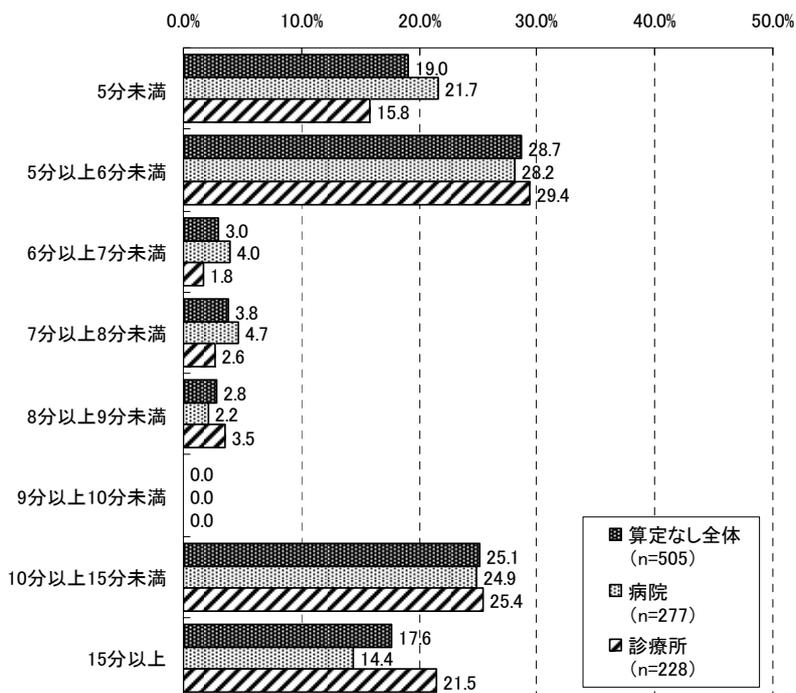
図表 76 診察を受けた時間の分布（全体、病院・診療所別）



図表 77 診察を受けた時間の分布（算定あり、病院・診療所別）

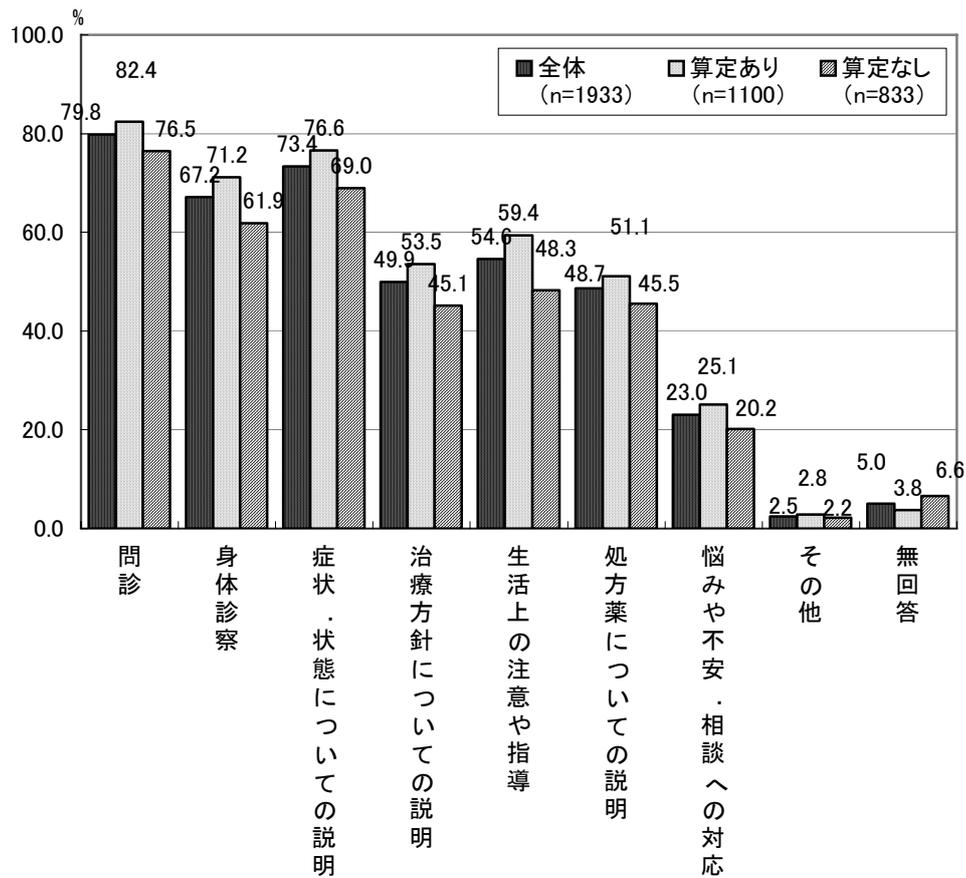


図表 78 診察を受けた時間の分布（算定なし、病院・診療所別）



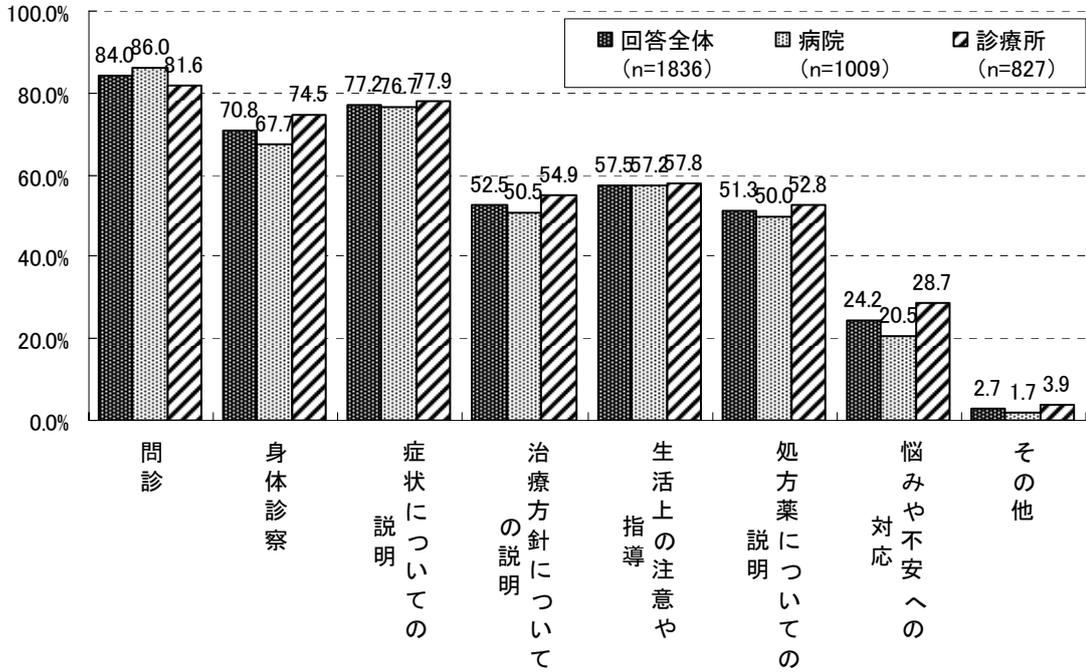
医師から受けた診察の内容についてみると、外来管理加算の「算定あり」の患者、「算定なし」の患者ともに、「問診」(それぞれ 82.4%、76.5%) が最も多く、次いで「症状・状態についての説明」(それぞれ 76.6%、69.0%)、「身体診察」(それぞれ 71.2%、61.9%)、「生活上の注意や指導」(それぞれ 59.4%、48.3%) であった。

図表 79 医師から受けた診察の内容

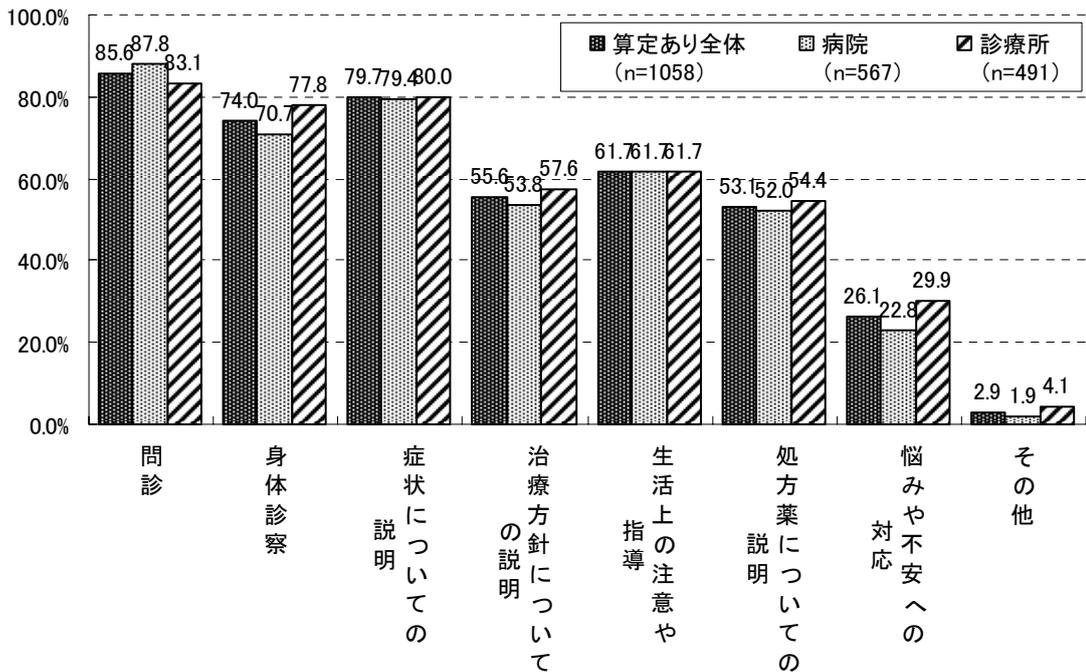


(注) 「その他」の内容として、「検査や検査結果に対する説明」、「家族に関する悩みや相談」等の回答があげられた。

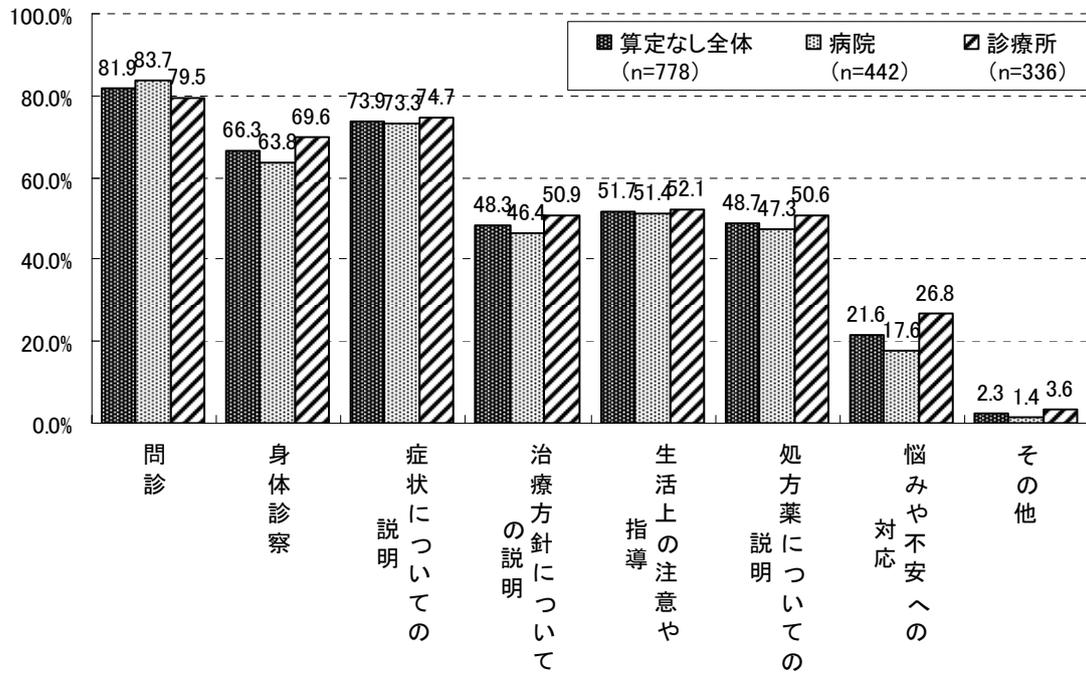
図表 80 医師から受けた診察の内容（全体、病院・診療所別）



図表 81 医師から受けた診察の内容（算定あり、病院・診療所別）

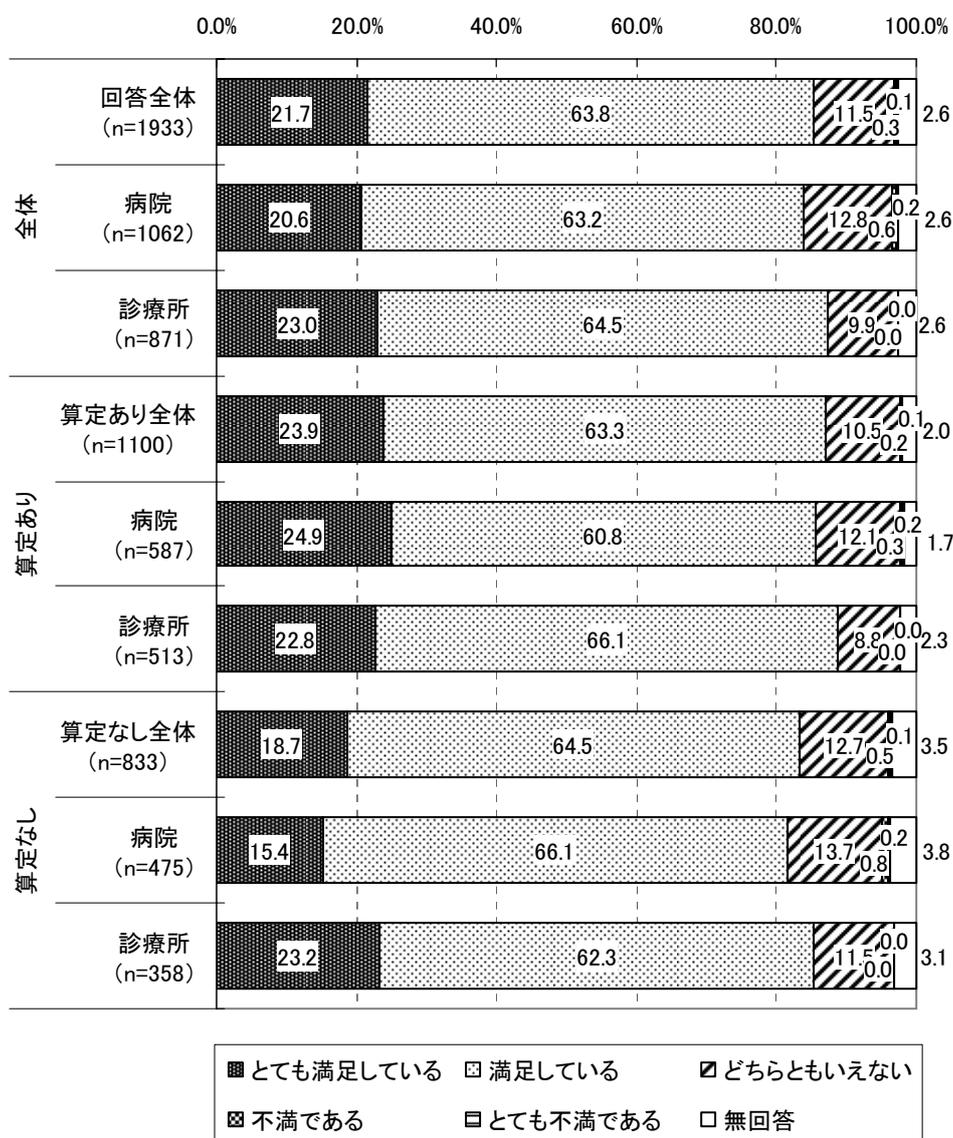


図表 82 医師から受けた診察の内容（算定なし、病院・診療所別）



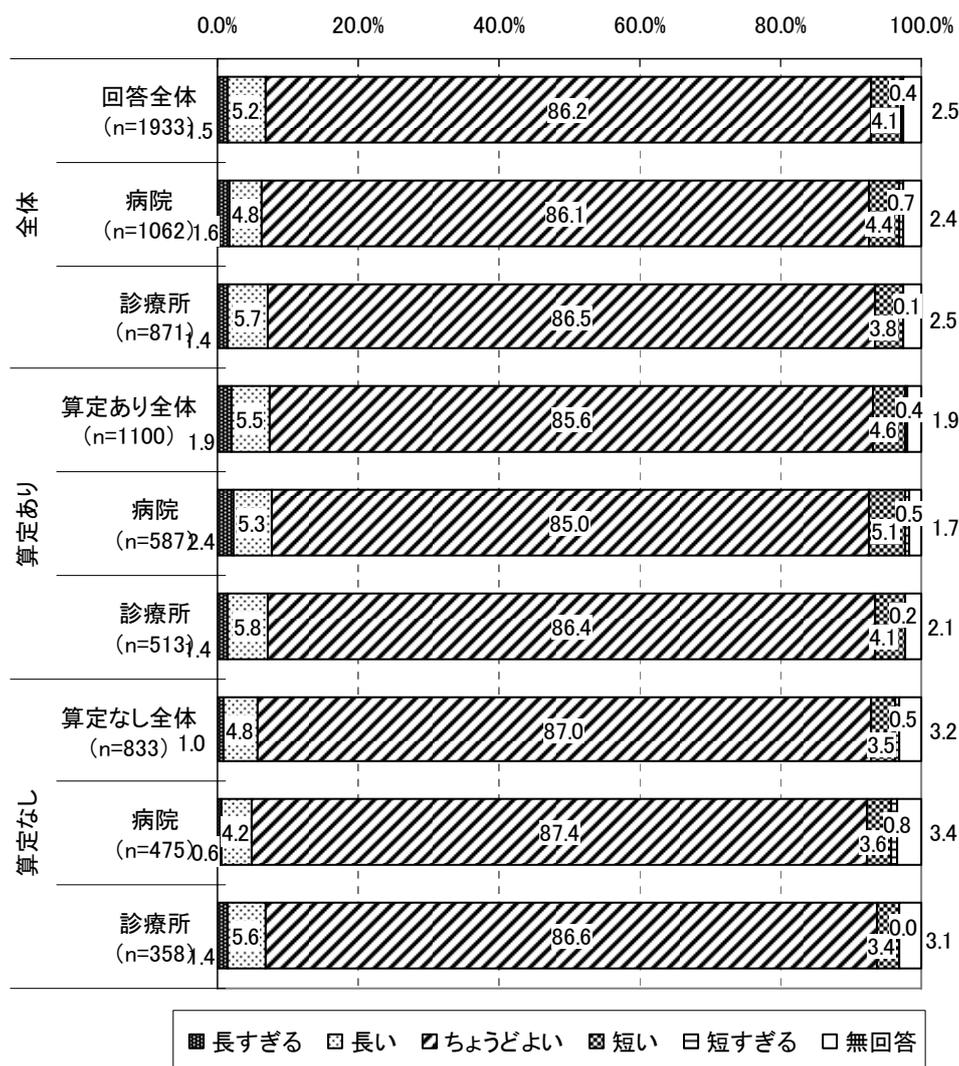
診察内容に対する満足度についてみると、「算定あり」の患者では、「とても満足している」(23.9%)と「満足している」(63.3%)を合わせると87.2%、「算定なし」の患者では、「とても満足している」(18.7%)と「満足している」(64.5%)を合わせると83.2%で、「算定あり」の患者の方がやや高い結果となった。一方、「算定あり」の患者、「算定なし」の患者ともに「どちらともいえない」(それぞれ10.5%、12.7%)が1割を占めた。

図表 83 診察内容に対する満足度



診察時間の長さに対する評価についてみると、全体では「ちょうどよい」(86.2%)が大多数を占めた。一方で、「長すぎる」(1.5%)と「長い」(5.2%)を合わせると6.7%、「短すぎる」(4.1%)と「短い」(0.4%)を合わせると4.5%であった。この傾向は、「算定あり」の患者と「算定なし」の患者でも同様であった。

図表 84 診察時間の長さに対する評価



「診療時間の長さに対する評価別平均診察時間」についてみると、全体では、「長すぎる、長い」とした患者の平均診察時間は 12.42 分、「ちょうどよい」とした患者の平均は 9.86 分、「短い、短すぎる」とした患者の平均は 5.52 分であった。外来管理加算の算定別にみると、「算定あり」では、「長すぎる、長い」とした患者の平均は 12.95 分、「ちょうどよい」とした患者の平均は 10.59 分、「短い、短すぎる」とした患者の平均は 5.44 分であった。「算定なし」では、「長すぎる、長い」とした患者の平均は 11.41 分、「ちょうどよい」とした患者の平均は 8.79 分、「短い、短すぎる」とした患者の平均は 5.67 分であった。

「ちょうどよい」と回答した「算定あり」の患者の平均診察時間は、「算定なし」の患者より平均 1.8 分長い結果であった。

図表 85 「診察時間の長さに対する評価」別平均診察時間

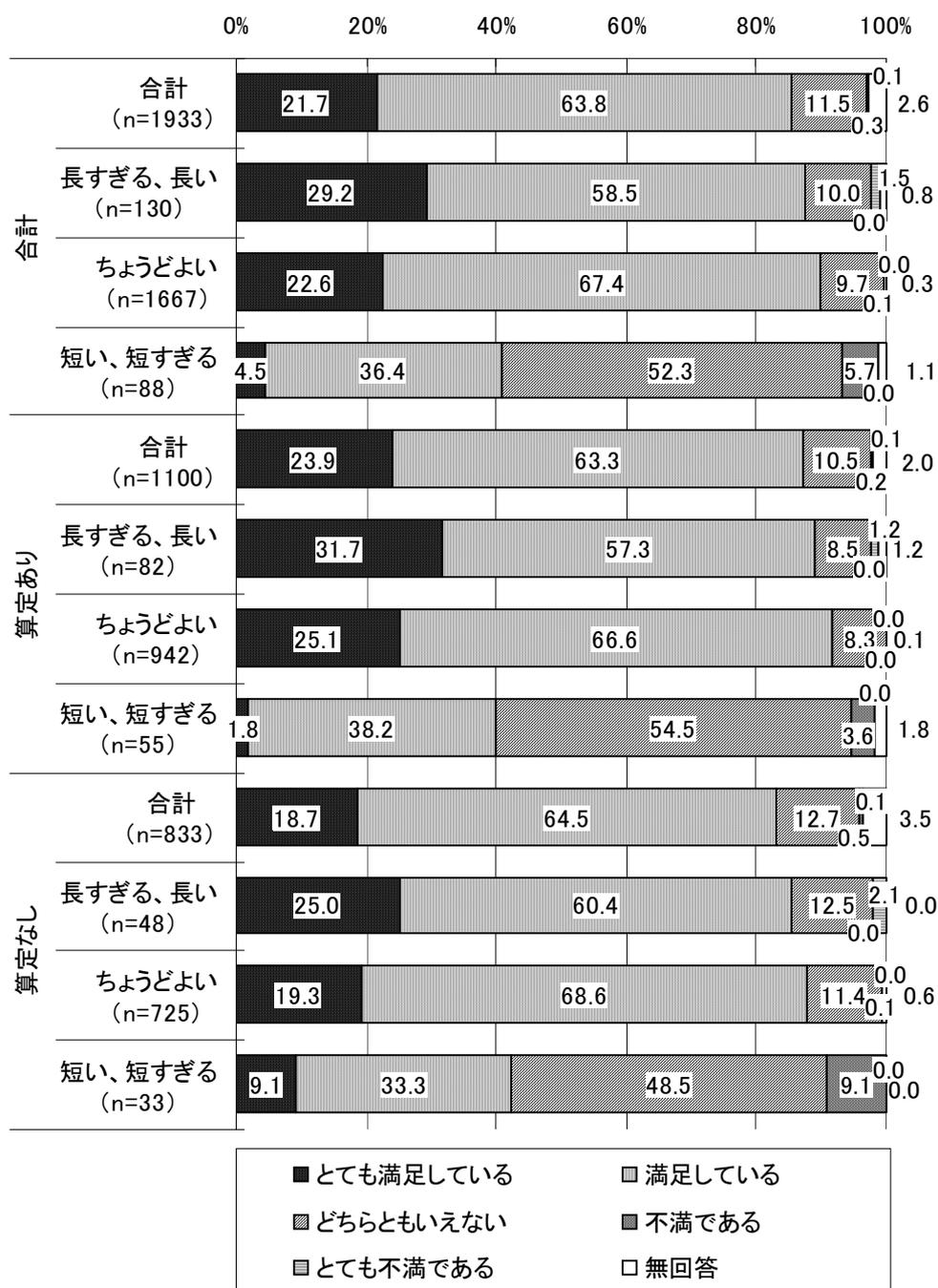
	全体		算定あり		算定なし	
	患者数	平均診察時間(分)	患者数	平均診察時間(分)	患者数	平均診察時間(分)
全体	1270	9.86	765	10.55	505	8.82
長すぎる、長い	84	12.42	55	12.95	29	11.41
ちょうどよい	1130	9.86	673	10.59	457	8.79
短い、短すぎる	52	5.52	34	5.44	18	5.67
無回答	4	12.50	3	15.00	1	5.00

「診察時間の長さに対する評価」別に「診察内容に対する満足度」についてみると、外来管理加算の「算定あり」の患者では、「長すぎる、長い」と回答した患者のうち「とても満足している」は 31.7%、「満足している」は 57.3%であり、「とても満足している」と「満足している」を合わせると 89.0%であった。「ちょうどよい」と回答した患者では、「とても満足している」は 25.1%、「満足している」は 66.6%であり、「とても満足している」と「満足している」を合わせると 91.7%であった。一方、「短い、短すぎる」と回答した患者では、「どちらともいえない」(54.5%)が最も多くなった。

外来管理加算の「算定なし」の患者では、「長すぎる、長い」と回答した患者のうち「とても満足している」は 25.0%、「満足している」は 60.4%であり、「とても満足している」と「満足している」を合わせると 85.4%であった。「ちょうどよい」と回答した患者では、「とても満足している」は 19.3%、「満足している」は 68.6%であり、「とても満足している」と「満足している」を合わせると 87.9%であった。一方、「短い、短すぎる」と回答した患者は、「どちらともいえない」(48.5%)が最も多くなった。

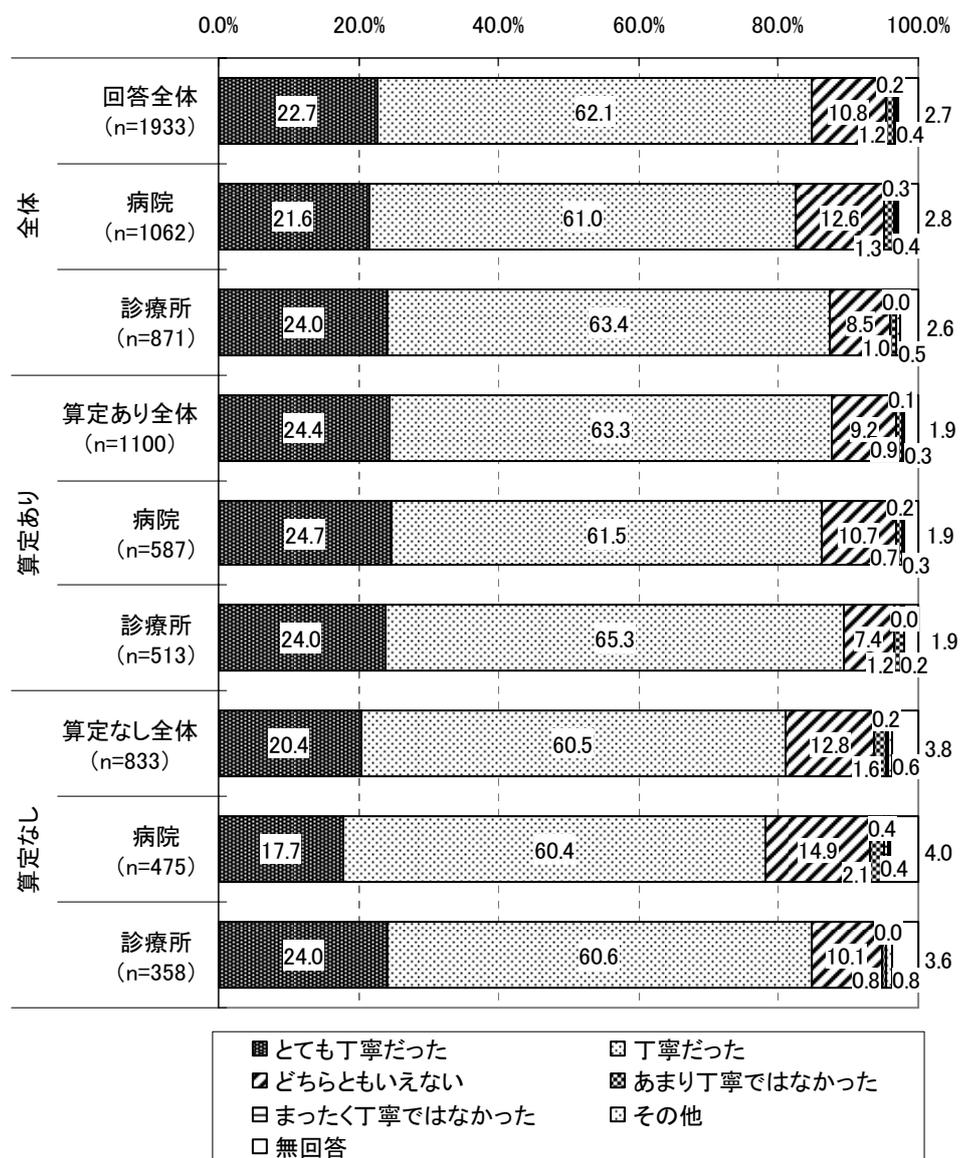
外来管理加算の算定別に「長すぎる、長い」と「ちょうどよい」と回答した患者の満足度を比較すると、「とても満足している」と「満足している」を合わせた割合は、「算定あり」の患者の方が、「算定なし」の患者よりもそれぞれ 3.6 ポイント、3.8 ポイント高くなった。同様に「短い、短すぎる」と回答した患者の満足度は、「算定あり」と「算定なし」の患者ともに「どちらともいえない」(それぞれ 54.5%、48.5%)が最も多くなった。

図表 86 「診察時間の長さに対する評価」別「診察内容に対する満足度」



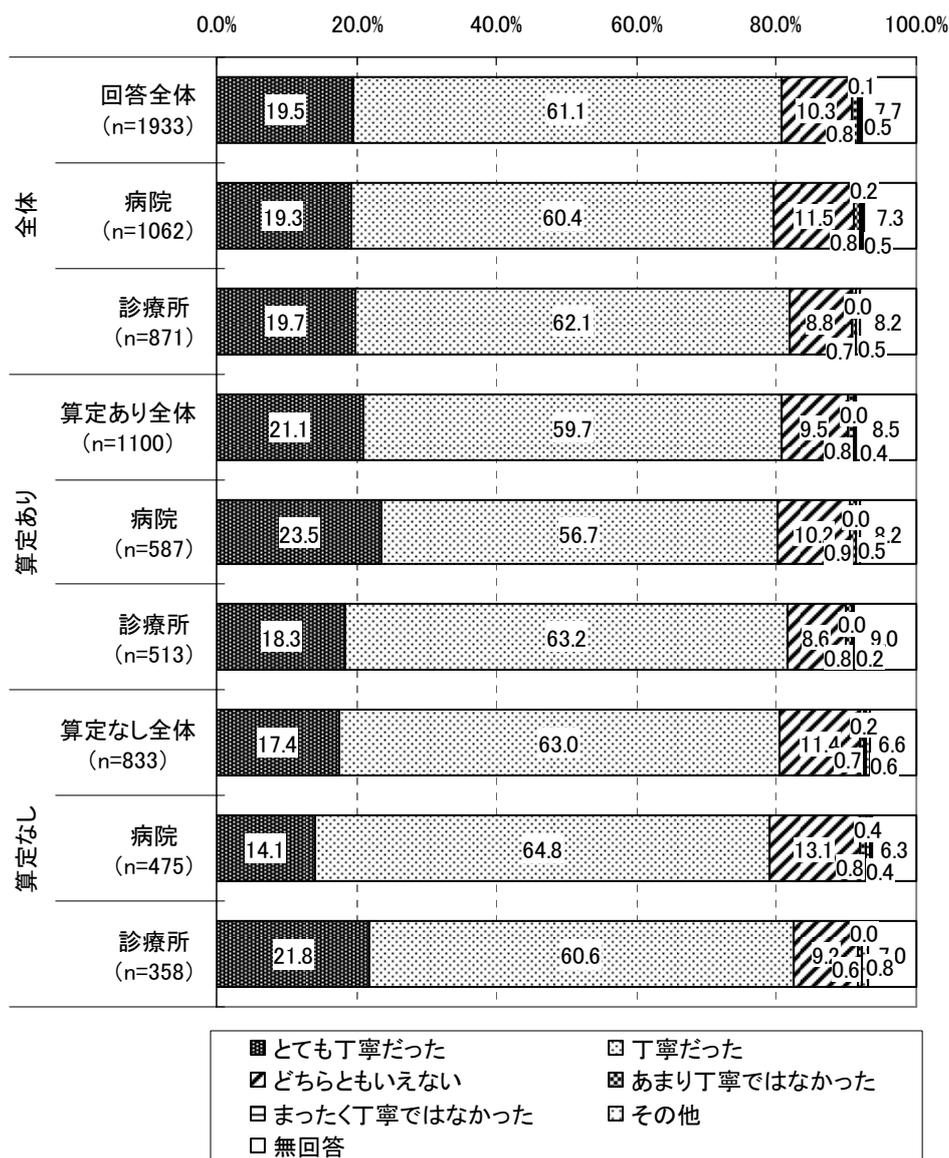
医師の問診や身体診察の丁寧さについての評価についてみると、「算定あり」の患者では、「丁寧だった」(63.3%)が最も多く、「とても丁寧だった」(24.4%)を合わせると87.7%であった。一方、「算定なし」の患者では、「丁寧だった」(60.5%)が最も多く、「とても丁寧だった」(20.4%)を合わせると80.9%であり、「算定あり」の患者方がやや高い割合となった。

図表 87 医師の問診や身体診察の丁寧さについての評価

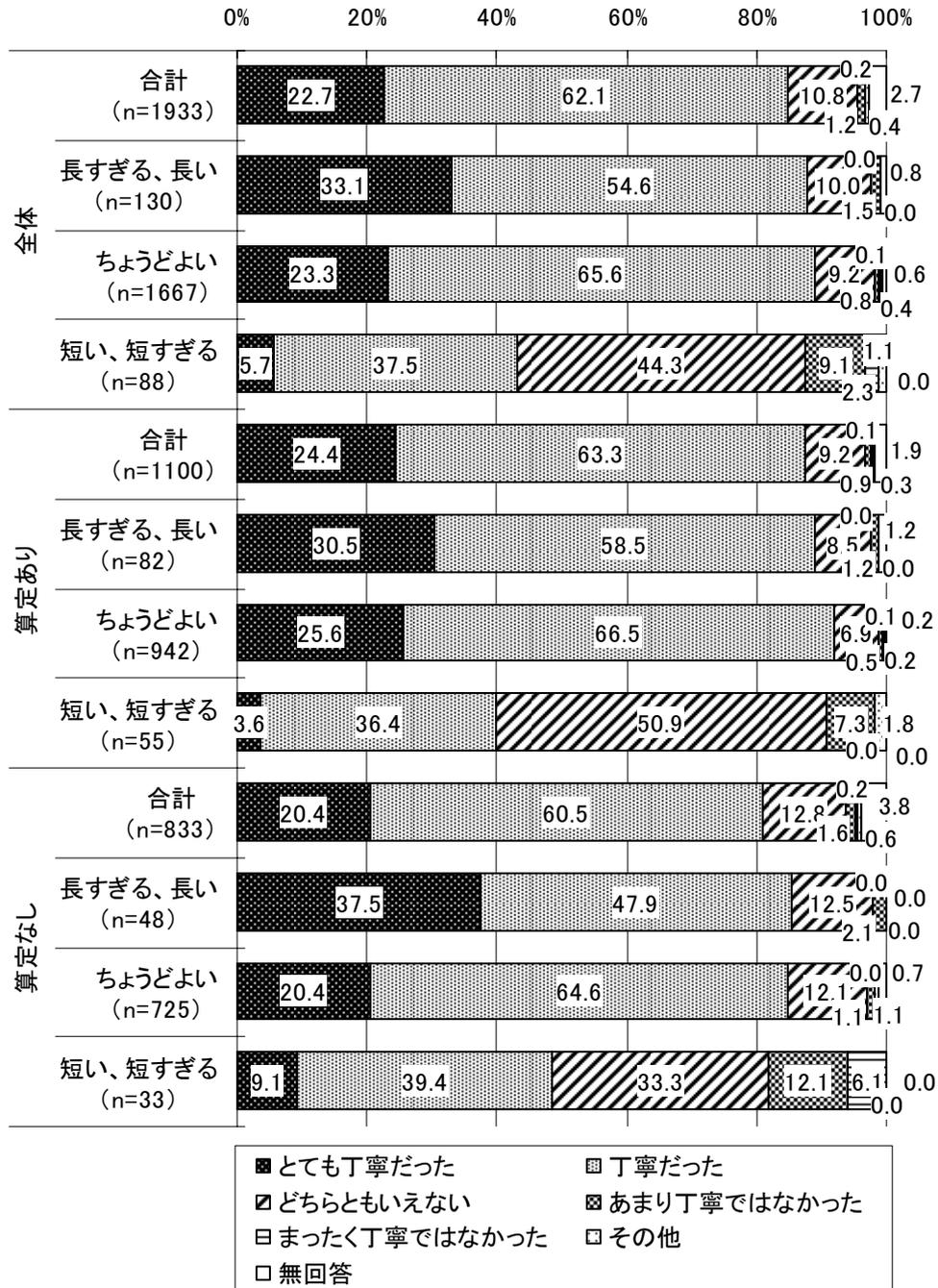


医師の説明内容の丁寧さについての評価についてみると、全体では、「丁寧だった」(61.1%)が最も多く、「とても丁寧だった」(19.5%)とあわせると80.6%となった。

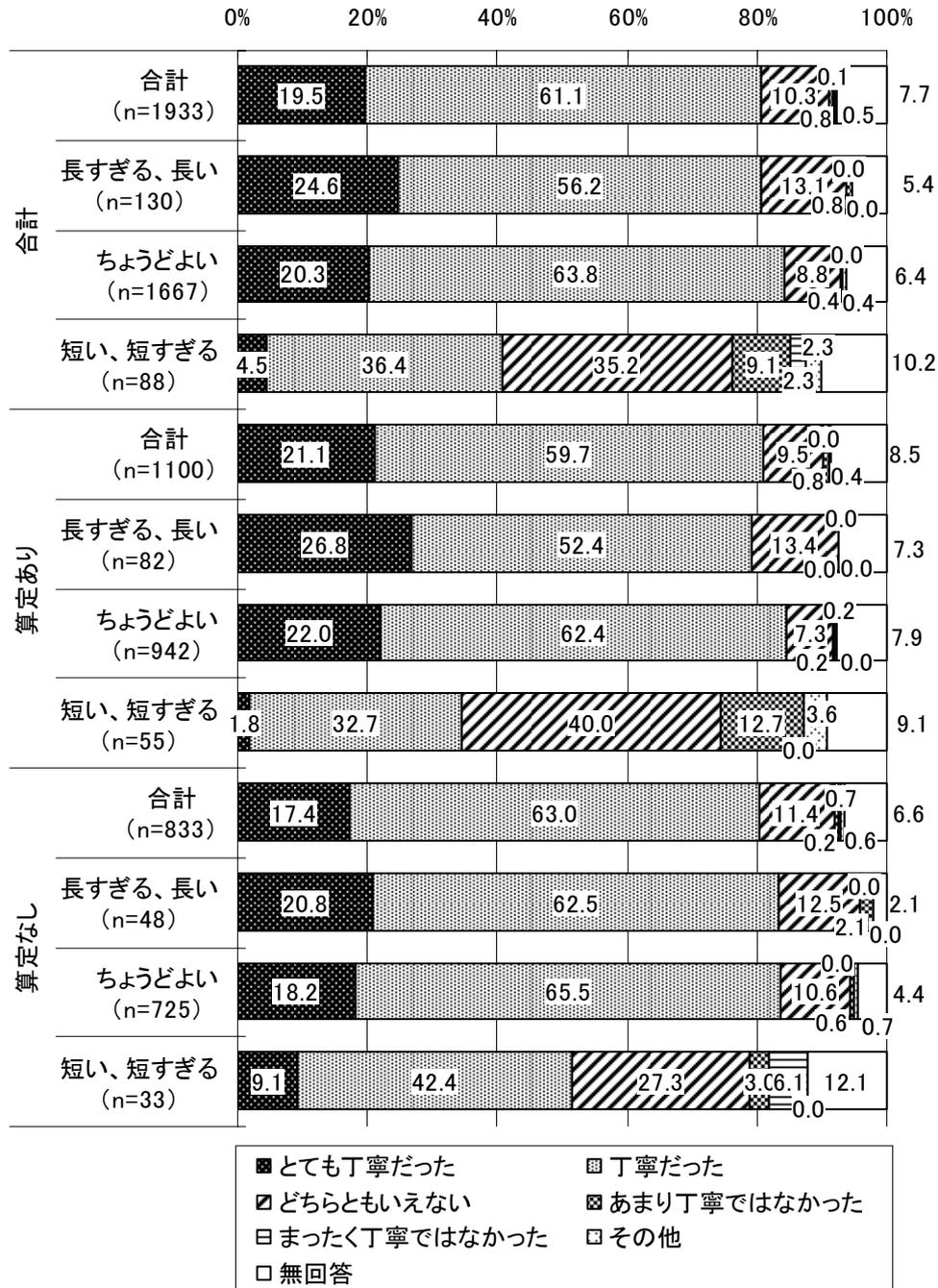
図表 88 医師の説明内容の丁寧さについての評価



図表 89 「診察時間の長さに対する評価」別「医師の問診や身体診察の丁寧さの評価」

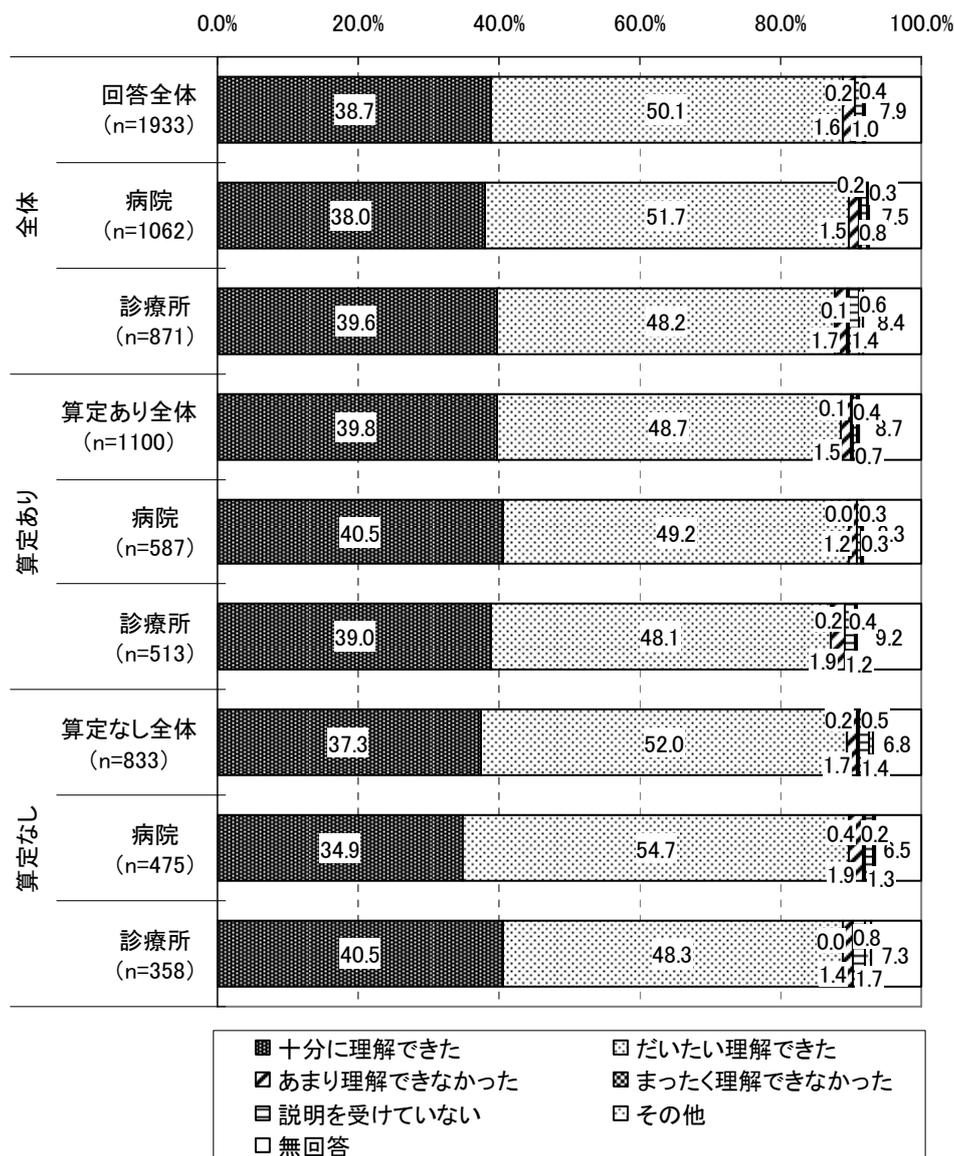


図表 90 「診察時間の長さに対する評価」別「医師の説明内容の丁寧さの評価」



医師の説明内容についての理解度についてみると、全体では、「だいたい理解できた」(50.1%)が最も多く、「十分に理解できた」(38.7%)と合わせると88.8%で大多数を占めた。外来管理加算の「算定あり」の患者と「算定なし」の患者でも同様の傾向であった。

図表 91 医師の説明内容についての理解度

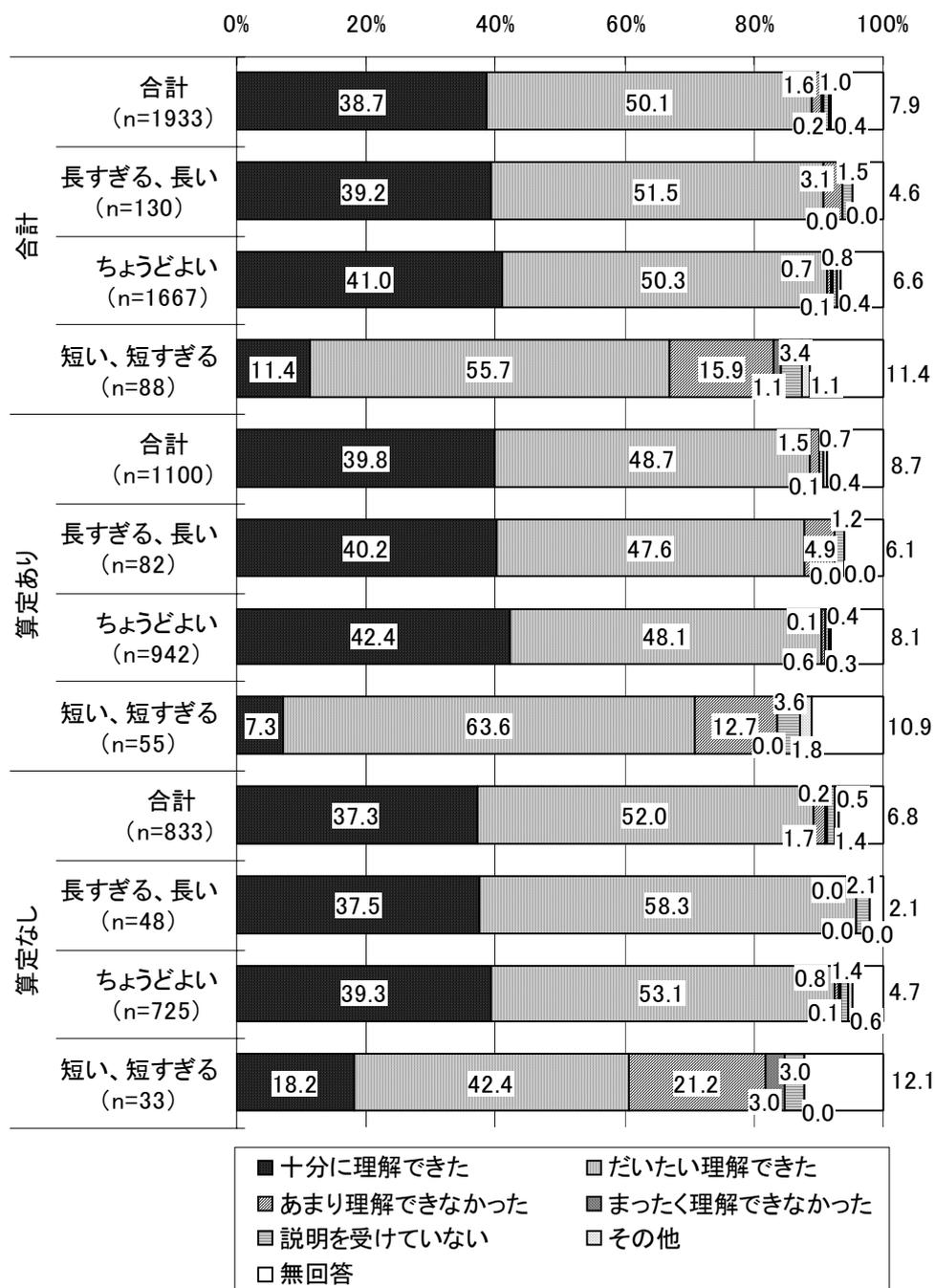


「診察時間の長さに対する評価」別に「医師の説明内容についての理解度」についてみると、外来管理加算の「算定あり」の患者では、「長すぎる、長い」と回答した患者のうち「十分に理解できた」(40.2%)と「だいたい理解できた」(47.6%)を合わせると87.8%、「ちょうどよい」と回答した患者では90.5%、「短い、短すぎる」と回答した患者では70.9%であった。「短い、短すぎる」と回答した患者のうち12.7%が「あまり理解できなかった」と回答した。

外来管理加算の「算定なし」の患者では、「長すぎる、長い」と回答した患者のうち「十分に理解できた」(37.5%)と「だいたい理解できた」(58.3%)を合わせると95.8%、「ちょうどよい」と回答した患者では92.4%、「短い、短すぎる」と回答した患者では60.6%であった。「短い、短すぎる」と回答した患者のうち21.2%が「あまり理解できなかった」と回答した。

外来管理加算の算定別に「長すぎる、長い」と「ちょうどよい」と回答した患者の理解度を比較すると、「十分に理解できた」と「だいたい理解できた」を合わせた割合は、「算定あり」の患者より「算定なし」の患者の方が、それぞれ8.0ポイント、1.9ポイント高くなった。同様に「短い、短すぎる」と回答した患者の「あまり理解できなかった」割合についてみると、「算定なし」の患者の方が「算定あり」の患者より8.5ポイント高くなった。

図表 92 「診察時間の長さに対する評価」別「医師の説明内容についての理解度」

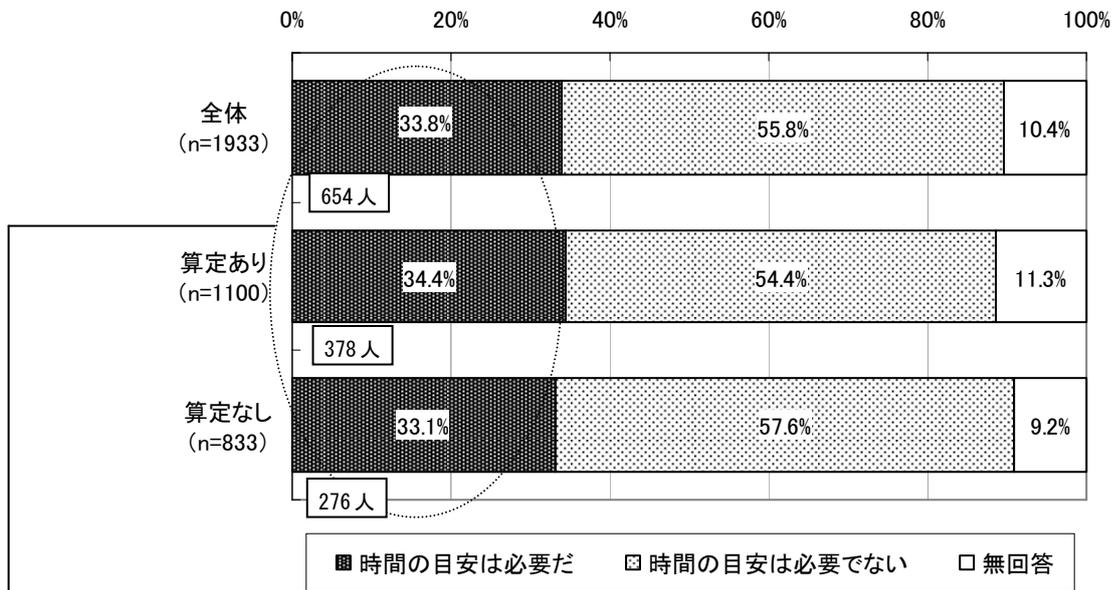


⑤外来管理加算の時間の目安についての考え

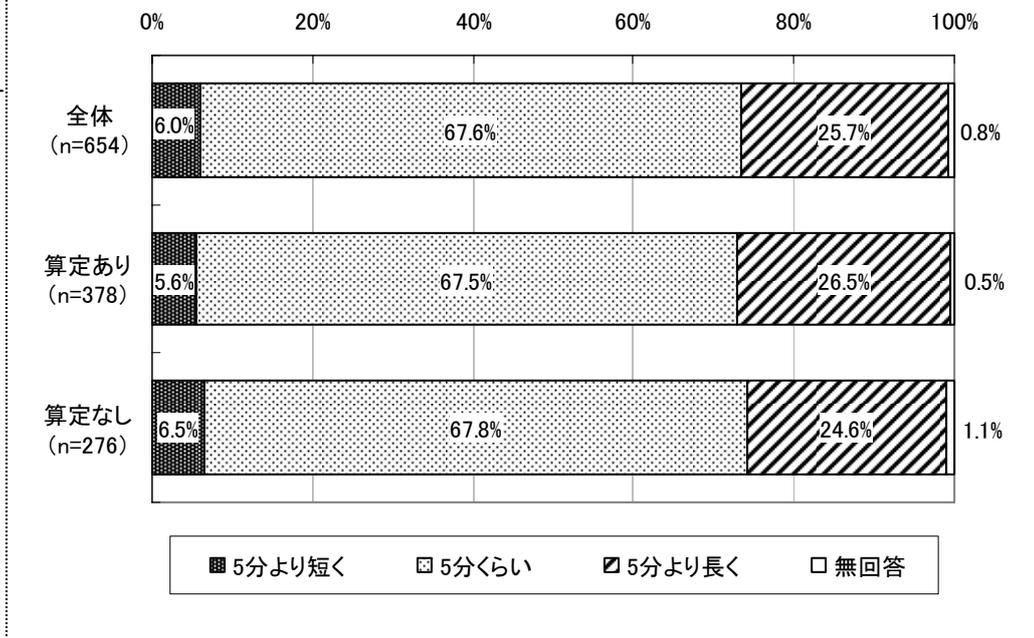
外来管理加算の時間の目安についての考えをみると、全体では、「時間の目安は必要でない」が55.8%で半数以上を占めた。一方、「時間の目安は必要だ」という回答は、33.8%であった。この傾向は、「算定あり」の患者と「算定なし」の患者も同様であった。

次に、「時間の目安は必要だ」と回答した人における「時間の目安」についてみると、全体では「5分くらい」(67.6%)が最も多く、次いで「5分より長く」(25.7%)、「5分より短く」(6.0%)であった。この傾向は、「算定あり」の患者と「算定なし」の患者でも同様であった。

図表 93 外来管理加算の時間の目安についての考え



図表 94 時間の目安



「外来管理加算の時間の目安についての考え」別に平均診察時間をみると、「目安は必要だ」と回答した外来管理加算「算定あり」の患者の平均は 11.08 分、「算定なし」の患者の平均は 8.68 分であった。「目安は必要ではない」と回答した外来管理加算「算定あり」の患者の平均は 10.04 分、「算定なし」の患者の平均は 8.47 分であった。「算定あり」、「算定なし」の患者ともに「目安は必要ではない」と回答した患者よりも「目安は必要だ」と回答した患者の平均診察時間の方がそれぞれ 1.04 分、0.21 分長かった。

図表 95 「外来管理加算の時間の目安についての考え」別平均診察時間

	全体		算定あり		算定なし	
	患者数	平均診察時間(分)	患者数	平均診察時間(分)	患者数	平均診察時間(分)
合計	1270	9.86	765	10.55	505	8.82
目安は必要だ	472	10.16	291	11.08	181	8.68
目安は必要ではない	671	9.38	389	10.04	282	8.47
無回答	127	11.27	85	11.01	42	11.79

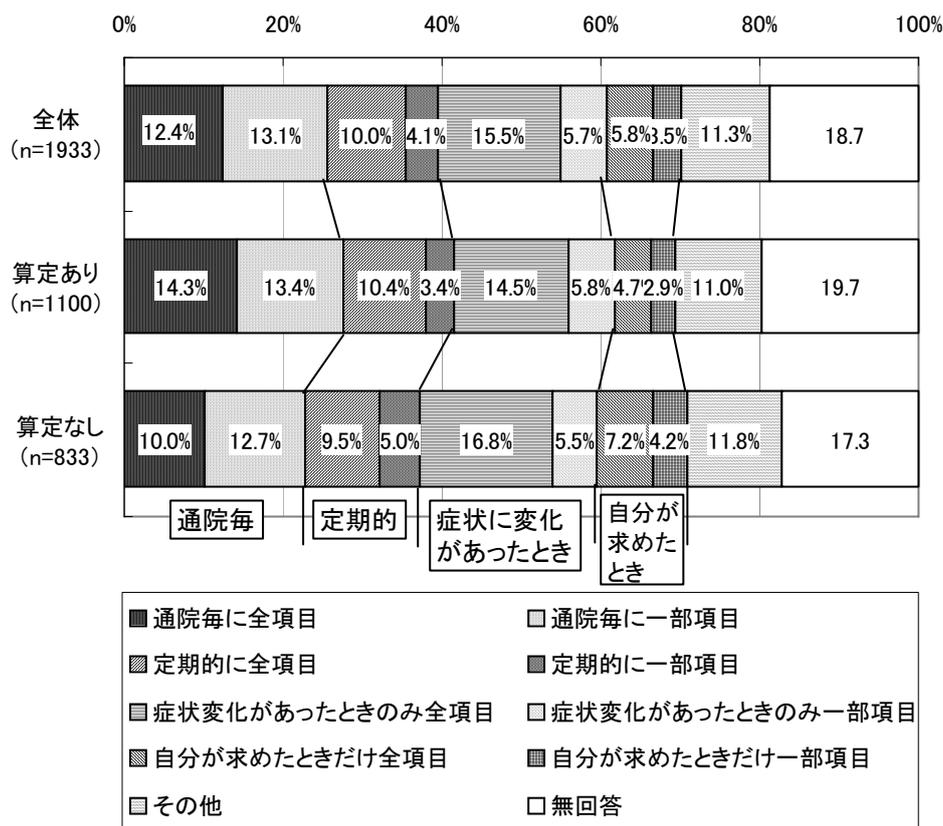
「懇切丁寧な説明」についての要望をみると、全体では、「症状に変化があったときのみ全項目」(15.5%)が最も多く、次いで「通院毎に一部項目」(13.1%)、「通院毎に全項目」(12.4%)、「定期的に全項目」(10.0%)となった。

外来管理加算の算定別にみると、「算定あり」の患者では、「症状に変化があったときのみ全項目」(14.5%)が最も多く、次いで「通院毎に全項目」(14.3%)、「通院毎に一部項目」(13.4%)であった。

「算定なし」の患者では、「症状に変化があったときのみ全項目」(16.8%)が最も多く、次いで「通院毎に一部項目」(12.7%)、「通院毎に全項目」(10.0%)であった。

全項目と一部項目を合わせた「懇切丁寧な説明」についての要望を外来管理加算の算定別に比べると、「算定あり」の患者では「通院毎」の割合が「算定なし」の患者より高くなり、「算定なし」の患者では「症状に変化があったとき」と「自分が求めたとき」の割合が「算定あり」の患者より高くなった。

図表 96 「懇切丁寧な説明」についての要望



(注)「その他」の内容として、「医師の判断に任せている」等の回答があげられた。

「実施してほしい一部項目の内容」について外来管理加算の算定の有無別にみると、「通院毎」では、「症状・状態についての説明」（それぞれ 70.7%、83.0%）が最も多く、「算定あり」の患者と比較して「算定なし」の患者の方が高い割合であった。

「定期的」についてみると、「算定あり」の患者、「算定なし」の患者ともに「症状・状態についての説明」（それぞれ 75.7%、71.4%）が最も多かった。次いで、「算定あり」の患者では「問診」（64.9%）、「身体診察」（62.2%）と続き、「算定なし」の患者では「治療方針についての説明」（54.8%）、「身体診察」（52.4%）、「生活上の注意や指導」（42.9%）であった。

「病状に変化があったときのみ」についてみると、「算定あり」の患者、「算定なし」の患者ともに「症状・状態についての説明」（それぞれ 65.6%、73.9%）が最も多く、次いで「治療方針についての説明」（それぞれ 53.1%、65.2%）であり、「算定あり」の患者と「算定なし」の患者を比較すると、「算定なし」の患者の方が高い割合であった。

「自分が求めたとき」についてみると、「算定あり」の患者では、「症状・状態についての説明」（65.6%）が最も多く、次いで「治療方針についての説明」（53.1%）、「悩みや不安の相談」（50.0%）であった。「算定なし」の患者では、「症状・状態についての説明」（54.3%）が最も多く、次いで「治療方針についての説明」（48.6%）、「生活上の注意や指導」（45.7%）であった。

図表 97 実施してほしい一部項目の内容

